



郷土出身の洋画家斎藤照子さんと語る

イタリア美術と私の生き方

(在欧40周年記念展について)

市長 本日は、お越しいただきましてありがとうございます。また、「記念展」がにぎやかに開催され本当におめでとうございました。

記念展には、何人くらいの方がおいでになりましたか。

斎藤 まだ数えていませんが、1日100人以上、多い日で200人以上の人においでいただきました。また、他県からも多くの人に来て頂きました。

市長 日本でこういう形の個展が開かれたのは初めてですか。

斎藤 初めてですね。市長 40年間ずっと開かれていないのですか。

斎藤 小さい個展は東京で開きました。40周年記念展は本庄でやってもらいたいと思っていました。

作品は100点ばかりでした。彫刻などは向こうの美術館にあります。イタリアの事情で持ち出せないのでパネ

ルで展示いたしました。

(美術家になったきっかけは)

市長 現在は、絵画よりも彫刻の方が専門なんですか。

斎藤 彫刻が好きですね。もちろん絵もやっていますが。

市長 高校生のころからですか。もつと幼いころから好きだったんですか。

斎藤 小さいころから絵が好きでした。粘土なども好きでやってました。

子どものころ、高木古泉という日本画家の人が本庄に疎開しておられました。そのころお琴を習っていました。

「照子さんお琴を聴かせて」と言われ「六段」などを弾いてあげました。こんなこともあり、先生の家に呼ばれても大変かわいがられ、ごほうびに筆などをくださり、家でよく描きました。とてもうれしかったです。

市長 高校では美術部でしたね。美術でがんばっていたと決心されたのはそのころなんですか。

斎藤 ユニークな先生が多いと聞いたので、武蔵野美術大学を選びました。

デッサンをしている時に、ある先生が、「あなた才能がありますから頑張ってください」と言われました。そのひと言で「あつ」と思いました。

「私本当に才能があるのかしらって・・・」先生のひと言で大切ですね。それから情熱が増しました。

市長 そつですね。わたしも中学校の先生のひと言で発奮した思いがあります。

(イタリア留学と絵画の3次元表現の研究)

市長 イタリアに渡るきっかけはなんですか。

斎藤 イタリア政府招へい留学試験を受けました。難しい試験でしたが、がんばりました。試験では、質問がすべてイタリア語なんです。さらに美術部門では1人しか採らないんです。2年間みっちり勉強しました。

市長 なぜイタリア美術を勉強したいと思ったのですか。

斎藤 大学にいるころから美術はイタリア、ロマネスク、ゴシック、特に初期ルネッサンスなどは、イタリアで勉強しなければならぬと思って

いました。

市長 ステンドグラスなどで中世の絵は平板な2次元、ルネッサンスになると遠近法で奥深い絵になるんですね。

斎藤 その勉強をしたかったんです。また、美術の宝庫でどこにいても素晴らしい作品があり、それが見たくて有名な美術家の生家などが身近にあるんですね。ラファエッロの生まれたのは、ウルビーノ。生家、部屋、子ども



う盲目の国文学者がいます。この塙保己一先生をまちぐるみで顕彰していこうと考えています。偉人をきちんと顕彰することは大事なことでと

市長 現在ローマにお住まいですが、今も大学で教えているんですか。斎藤 今は辞めました。73歳まで教えられますが自分の仕事に打ち込みたいと思

市長 イタリアの中で芸術家として世に認められたのはいつごろからですか。斎藤 向こうへ行きまして割合早くです。ローマ国立美術アカデミア大学に

を次々にもらったものですか。

ローマで個展を開いたところ、すごく評判が良くて、あのころは日本人が居なかったものから。とにかく珍しかったの

市長 先生の作品を見て感じたことですが、寄贈していただいた「ジネストラ」もそうですが、これを見た人がな

斎藤 やはり、日本独特の色調とか形、そこにある空間の神秘さですね。間ですね。市長 間ですか。斎藤 間というのは、一口で

忘れちゃったんですか」と言われ

市長 われわれは、聞いていてその瞬間にぐっとこぶし

斎藤 能にしてもね。そしてそれを説明するんですけれど。生まれてから

市長 私の地元で台町の獅子舞があります。この太鼓に



塗ってしまうんですよ。斎藤 そうなんです。ベネツィアへ行っ

市長 全部敷き詰めちゃうんです。ところが日本画は、屏風でも、襖でもそこにスー

市長 絵画でも、その間と言うもの、その何も無い空間、でも奥行きがあるんですよ。それをイタリアの人にお伝え